

川崎市市制100周年記念事業・全国都市緑化かわさきフェア実行委員会
第7回総会 摘録

日時：令和7年8月29日（金）15時00分～16時30分

場所：洗足学園音楽大学 前田ホール

1 開会

○司会（事務局・小池）

定刻となりましたので、これより「川崎市市制100周年記念事業・全国都市緑化かわさきフェア実行委員会 第7回総会」を開催いたします。私は、本日、司会を務めさせていただきます、実行委員会事務局川崎市シティプロモーション推進室の小池と申します。

昨年度一年間、さらには一昨年の準備期間も含めまして皆様と一緒に、「市制100周年記念事業」及び「全国都市緑化かわさきフェア」を取り組ませていただいたことで、本当にさまざまな事業を創出することができました。本日お配りしております記録誌のボリュームにも表れておりますが、それぞれが思い出深く、100周年を彩る素敵な取組がたくさん生まれました。この場をお借りしまして、事務局を代表して、感謝を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

本日の総会をもって、皆様にお集まりいただく会は最後となりますが、この総会が皆様とともに、これからの川崎をつくっていくはじまりになればと思っております。本日はどうぞよろしくお願いいたします。それでは、開会にあたりまして、会長である福田 紀彦川崎市長より、ご挨拶いただきたいと存じます。福田会長、よろしくお願いいたします。

2 会長挨拶

○川崎市長：福田 紀彦 会長

皆さん、こんにちは。大変お暑いなか、このように多くの皆様にお集まりをいただきまして、誠にありがとうございます。第7回の実行委員会ということで、第1回が始まったのは、いつだったかと言いますと、2022年9月ということで、もう3年前にさかのぼります。「ああ、もうそんなにたったのかな」という思いであります。

この3年間にわたって皆様には、市制100周年と、象徴的な事業である「全国都市緑化フェア」に多大なるご協力をいただきましたこと、心から感謝申し上げます。

その当時は276団体ということでしたけれども、最終的には397団体まで輪が広がって、改めて「川崎を知って、関わって、好きになる」というような取組が市内各地で行われ、また、緑化フェアも全国で初めて2期開催というチャレンジングな取組でありましたけれども、多くの市内外の皆さんに喜んでいただいて、「川崎のみどり」という価値をお見せすることができたのではないかなと思っております。

今、司会からもありましたけれども、今日の総会で一つの締めくくりという形にさせていただくわけですが、せっかく集まり、みんながつながって、新しい価値を生み出したこの100周年の取組を、これから始まっていく「あたらしい川崎」への次なるステージのためにもう一回、新しい始まりをつくっていくというスタートの会にもしたいと思っております。

本日は、まさにその100周年の培ったレガシーをこれからのまちづくりにどう生かしていくのかということと、みどりのまちづくりを今後どうつくっていくのかということの方向性を皆さんにご審議いただきたいと思います。

本日は、国土交通省から都市局の望月室長、それから、関東地方整備局から煙山さんにも来ていただきました。そして、おなじみの涌井史郎先生にもお忙しいなか、ご出席いただいておりますことに

改めて感謝申し上げたいと思いますし、ぜひ、こういったつながり、2部では懇親会も用意しておりますので、ぜひ参加をしていただき、新たなつながりに向けてのボーディングの機会にさせていただければと思います。

結びになりますけれども、この素晴らしいホール、会場を貸していただいた洗足学園の前田理事長をはじめ、関係者の皆さんに感謝を申し上げたいと思います。それでは皆さん、今日はどうぞよろしく願いいたします。

3 副会長・顧問御紹介

○司会（事務局・小池）

続きまして、本日出席の副会長の御紹介をさせていただきます。

～副会長紹介～

- ・川崎市議会議長：原 典之 副会長
- ・川崎商工会議所会頭：草壁 悟朗 副会長
- ・都市緑化機構理事長代理：専務理事 柳野 良明 様
- ・川崎市全町内会連合会 会長：持田 和夫 副会長
- ・川崎市社会福祉協議会 会長：今 富子 副会長
- ・川崎市総合文化団体連絡会 理事長：中村 紀美子 副会長
- ・川崎市副市長：加藤 順一 副会長
- ・川崎市副市長：藤倉 茂起 副会長
- ・川崎市副市長：三田村 有也 副会長

○司会（事務局・小池）

続きまして、御臨席いただいている顧問の方を御紹介させていただきます。

～顧問紹介～

- ・国土交通省都市局長 代理 国土交通省都市局公園緑地・景観課緑地環境室長：望月一彦 様
- ・国土交通省関東地方整備局長 代理 国土交通省関東地方整備局建政部 公園利活用推進センター長：煙山 亜由美 様
- ・東京都市大学環境学部特別教授：涌井 史郎 様

○司会（事務局・小池）

また会場には、川崎市議会の堀添 健副議長にもお越しいただいております。役員を代表いたしまして、川崎市議会議長の原 典之副会長より、ご挨拶いただきたいと存じます。原副会長、よろしく願いいたします。

4 副会長挨拶

○川崎市議会議長：原 典之 副会長

皆様、こんにちは。ご紹介いただきました、川崎市議会議長の原でございます。この実行委員会の副会長として、また、市議会を代表して、ご挨拶を述べさせていただきたいと思います。この第7回の総会ということで、私、6月から議長を拝命いたしましたもので、第7回の最後の総会からの参加をさせていただくこととなります。それまでは、先代の青木議長、また、今、市長からもお話にあった3年前としますと、橋本議長時代からこの総会が開かれ、市制100周年に向けての多くの団体の皆様からさまざまなご尽力またはご活躍をいただき、無事に成功裏に終えたことができたのかなと思います。

先ほどここに向かってくる途中に、この100周年の記念冊子を見させていただきましたら、私も参加をさせていただいた、「かわさき飛躍祭」ですとか、「全国都市緑化かわさきフェア」、また、いろいろな、さまざまなイベントがあったのだなと、電車のなかでJazzを開いたりですとか、また、企業さんが100周年のイベントの商品を出していただいたり、全部で数えますと、プレの時期から見ますと、約2年間で大なり小なり合わせると700近いイベントがあったというように資料を拝見させていただきました。

2年間で700ということは、一日一つ、どこかしらで、市内で行っていたのかなというように、改めて多くの皆様がこうして関わっていたのだなというように思っています。

そして、この緑化フェアは2期開催ということで162万人の方々がお見えになったと伺ってございまして、私もその頃は自民党の団長ですとか、または議運の委員長というお役をさせていただきながらも、先輩議員とこの「かわさき緑化フェア」に対しましての、前の年には仙台に、そして、その前は恵庭、または広島と熊本、過去の4年間はおそらくこの4都市かと思うのですが、全て参加をさせていただきました。地域ごとに、たくさんの趣向を凝らした緑化フェアなのだなというように改めて思われて、どこよりも手前味噌でございますけれども、川崎が一番よかったなというように思っています。

この100周年を機に、次の100周年に向けて川崎市も新たな一歩を踏み出しました。ここにつきましても、引き続き、皆様方のご協力をいただかなければ、川崎の将来、子どもの将来もあることができませんので、私からも皆様に引き続きのご協力をよろしくお願いを申し上げまして、一言御礼、そして、総会のお祝いのご挨拶とさせていただきます。今日はよろしくお願い申し上げます。

○司会（事務局・小池）

原副会長、ありがとうございました。

続きまして、顧問を代表いたしまして、国土交通省都市局公園緑地・景観課 緑地環境室長、望月一彦様より、ご挨拶いただきたいと存じます。望月様、よろしくお願いいたします。

5 顧問挨拶

○国土交通省都市局公園緑地・景観課緑地環境室長 望月一彦氏

ただいまご紹介いただきました、国土交通省緑地環境室長の望月でございます。僭越でございますけれども、顧問を代表してということで一言ご挨拶を申し上げたいと思います。

まず、本日は福田市長様をはじめ、実行委員会の皆様方におかれては、この市制100周年記念事業、そして、全国都市緑化かわさきフェアの実行委員会のを締めくくる第7回の総会にお招きをいただきましたこと、心から御礼申し上げます。ありがとうございます。

早いもので、先ほど来のご挨拶にもご紹介いただいておりますけれども、第41回全国都市緑化かわさきフェアの開催から4カ月が経過いたしました。新緑を楽しむ季節から、本日もそうですございますけれども、非常に暑い日が続く、みどりの木陰あるいは芝生の空間、そういったみどりがあることの大切さをすごく実感する季節を迎えているのではないかなと思います。

全国都市緑化フェアは、かわさきフェアで皆様方は実感していただいたと思いますけれども、国内最大級の花と緑の祭典であるということだけではなくて、みどりを守り、つくり、育てることの大切さに対する認識を深めること、そして、みどりのまちづくりがさまざまな主体によって非日常化されていくということ、そうしたことを意義としているというところでございます。

このたび、全国で初めて2期に渡って開催をいただきました、かわさきフェアにおいては、市民、企業、そして、行政の皆様が協働によって日常生活にみどりがあることの魅力、あるいはその価値を160万人を超える多くの方々をお迎えして、発信をしていただいたことは大変意義深く、その開催意義は十二分に達成できたものと確信をしているところでございます。これもひとえにフェアの成功に向けまして尽力をされてこられました、川崎市、都市緑化機構並びに関係者の皆様、そして、会期

中いろいろとご協力いただいた多くのボランティアの皆様方のご尽力の賜物と考えております。深く敬意を申し上げる次第でございます。

また、川崎市におかれましては、先ほど市長様からもご紹介がありましたが、フェア後も「みどりのKAWASAKI宣言」を踏まえた取組として、川崎のみどりの将来像を描いて、さまざまな主体が連携してみどりのまちづくりを進めるということの検討に着手されていると伺っております。こうした取組については、まさにフェアを提唱する私どもとしても、そのレガシーになるものとして大変期待をしているというところでございます。また、そのような動きについては、2027年国際園芸博覧会の理念とも同じくするものということで、大変素晴らしい取組であるというように考えているところでございます。

川崎市のみどりの政策につきましては、私ども国土交通省、それから、全国の都市も注目をしている従来からの取組として、市内の守るべき緑地、これを独自の方法で評価して保全活動を重点化していくという「川崎方式」とも呼ばれる、非常に先導的な緑地を守る取組を実施されてこられております。今回のフェアを契機として、100年先の未来を見据えたみどりの将来像を描く取組におかれましても、この全国の都市を先導するようなものへと磨き上げていただけることを祈念しているところでございます。

結びとなりますけれども、実行委員会の皆様をはじめ、かわさきフェアの開催にご尽力をいただきました全ての関係者の皆様方に改めて感謝を申し上げますとともに、みどりを守り育てる輪が、ここ川崎から全国に広がっていくことを祈念いたしまして、私からのご挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

○司会（事務局・小池）

望月様、ありがとうございました。

続きまして、第7回総会を開会させていただきます。

それでは、会則第9条及び20条に基づきまして、議事進行につきましては、会長の福田市長にお願いいたします。

6 議事（議案・報告）

○会長（福田川崎市長）

それでは、議事を進行してまいります。

議案第1号「令和6年度事業報告及び収支決算について・全国都市緑化かわさきフェア」、それから、議案第2号「令和7年度収支予算の補正について・全国都市緑化かわさきフェア」、議案第3号「令和6年度事業報告及び収支決算について・市制100周年記念事業」、そして、議案第4号「川崎市市制100周年記念事業・全国都市緑化かわさきフェア実行委員会の解散及び残余財産の清算」について、一括して説明をお願いいたします。

【議案第1号：令和6年度事業報告及び収支決算について(全国都市緑化かわさきフェア)】

【議案第2号：令和7年度収支予算の補正について(全国都市緑化かわさきフェア)】

○実行委員会事務局 矢口担当課長

「令和6年度事業報告及び収支決算について」及び「令和7年度収支予算の補正について」を説明

【議案第3号：令和6年度事業報告及び収支決算について(市制100周年記念事業)】

【議案第4号：川崎市市制100周年記念事業・全国都市緑化かわさきフェア実行委員会の解散及び残余財産の清算について】

○実行委員会事務局 金井担当課長

「令和6年度事業報告及び収支決算について」及び「川崎市市制100周年記念事業・全国都市緑化かわさきフェア実行委員会の解散及び残余財産の清算について」を説明

○会長（福田川崎市長）

ありがとうございました。それでは、ただいまの説明について何かご質問ございますでしょうか。
それでは、よろしいでしょうか。よろしければ、議案1号から4号について、拍手をもってご承認いただければと思います。

（拍手をもって承認）

ありがとうございました。

それでは、ただ今、議案第1号から4号については、決定とさせていただきます。

報告第1号：川崎市市制100周年記念事業の取組について

○会長（福田川崎市長）

続いて、報告第1号「川崎市市制100周年記念事業の取組について」説明をお願いします。

○実行委員会事務局 金井担当課長

「川崎市市制100周年記念事業の取組について」を説明

○会長（福田川崎市長）

それでは、ただいまの説明について、何かご意見・ご質問ありましたらお願いします。よろしいでしょうか。

○会長（福田川崎市長）

続きまして、議案第5号「Colors, Future! Actions推進ビジョン」（案）について説明をお願いします。

議案第5号：「Colors, Future! Actions推進ビジョン」（案）～川崎市市制100周年記念事業のレガシー～

○実行委員会事務局 野村担当課長

「Colors, Future! Actions推進ビジョン(案)」を説明

○会長（福田川崎市長）

ありがとうございました。この実行委員会の後継組織というものをしっかりとつくって、今申し上げたような「Colors, Future! Actions推進部会」というものを立ち上げて、そこでさらにこの取組を進めていくということでございます。そして、この100周年で築いたいろいろな取組というようなものは7年度もしっかりと継続していき、発展させていくというところでございました。ただいまの説明について、何かご質問等、ご意見などありましたらお願いいたしますが、いかがでしょうか。それでは、このような取組でやらせていただくという形でよろしいでしょうか。よろしければ、この議案についても、拍手でもってご承認いただければと思います。

（拍手をもって承認）

ありがとうございました。それでは、ただ今、議案第5号については、決定とさせていただきます。続いて、報告第2号「全国都市緑化かわさきフェアにおける取組と今後のみどりのまちづくりに向けて」について説明をお願いします。

○実行委員会事務局 矢口担当課長

「全国都市緑化かわさきフェアにおける取組と今後のみどりのまちづくりに向けて」を説明

○会長（福田川崎市長）

ありがとうございました。それでは、ただいまの報告について何かご意見、ご質問等ありましたらお願いいたします。よろしいですか。特にないようでしたら、こちらで報告を終わらせていただきたいと思います。ただいまの報告をもちまして、本日の議事は以上となります。

7 閉会

○会長（福田川崎市長）

ここで副会長を代表いたしまして、草壁会頭から、それから、顧問を代表して涌井先生から、総会全体を通じてコメントをいただければと思います。それでは、まず、草壁会頭からよろしいでしょうか。

○草壁副会長

商工会議所の草壁でございます。自分は、生まれも育ちも川崎というか、幸区の小学校で、中原区の中学校と多摩区の高校に通っておりましたので、それこそ半世紀以上前から、このまちに深い愛着は持っておりました。ただ、当時の川崎市は、公害とか、公営ギャンブルとか、風俗とか、そういったイメージも強くて、大学の友人から、「お前、どこの出身？」と聞かれると、「おう、川崎だよ」というように答えるわけなのですけれども、なんとなく後ろめたさも感じていたのも事実であります。ですから、この100周年を迎えた川崎が、シビックプライド指標とか都市のイメージというものがすっかり様変わりしているということに対して心から嬉しいと感じますし、誇らしいということにも感じます。

そして、この記念事業を一過性のものにしないための仕組みづくりがこうして具体的に進められていることを大変頼もしく感じております。川崎市内では、臨海部、JFE高炉の跡地が、それこそ10年、20年のタームで再開発が行われ、京急川崎駅の隣接の所では、アリーナが5年後とか6年後に完成をし、武蔵中原でも富士通テクノロジーパークというのが2035年の富士通100周年に向けて段階的に推進されるというようなことで、多くの企業が新陳代謝を繰り返しながらも前進をし続けていくと自分は思っています。

幸い、オール川崎で取り組んだ、この100周年記念実行委員会に多くの企業、そして、団体が参加をされております。ここで生まれた絆とか関係性を維持し、発展をさせ、魅力のある、そして、可能性に満ちた川崎の未来に向けて、引き続き、ベクトルの方向性を一致させていくことが非常に重要かなと思います。冒頭、市長からお話がありましたけれども、市制100周年記念事業の第2ステージというようなものが、今日ここから始まると、そんな感想を持っております。我々もこうした流れを他人事ではなくて自分事として捉え、チャレンジを続けていきたいものであります。以上です。ありがとうございます。

○涌井顧問

顧問をしております、涌井でございます。どうぞよろしくお願いいたします。本日は、事務局から大変な、膨大な報告を伺いまして、私は感無量だなという気がしております。私は、「みどり」というものを主体にした環境問題ということで、川崎市と長年に渡って関わってまいったわけではありますが、今、会頭がおっしゃられたように、この川崎という行政体、実は非常に困難なものを抱えておまして、それは南北方向に、多摩川に沿って細長いということから、どうしても一体性というものが、なかなか生まれにくかったということがあろうかと思えます。

しかし、この100周年をもって、それを逆手に取って「Colors」と、つまり、それぞれの地域の個

性、あるいはこの川崎市民ひとりひとりの個性を未来に向かって共創していく大きな原動力にしようよと、こういうのがこの「Colors, Future! Actions」ということだろうというように思いますし、そのきっかけになるのが、いわゆる記念行事として都市緑化フェアであったのではないだろうかという気がいたします。まさに、ここのなかで多くの方々が、会場を3か所に分け、季節もまた2回、2季節に分けたということで、南の方が北に行き、北の方が南に行くという交流が生まれました。さまざまな形で、実は地域を超えたコミュニティが形成し始めているというように思っております。

私は、国交省が今かなり力を入れておられます、「グリーンインフラ」ということについても関わっているわけでありますが、官民連携グリーンインフラ協議会というものの会長代理というものを務めておりますけれども、そういうなかで今、私たちが申し上げているのは、2022年、「ネイチャーポジティブ」という2030年の目標が「昆明・モントリオール協定」ということで締約されまして、今のこの気候変動や、そして、「プラネタリー・バウンダリー」という、もう地球の表面、薄い薄い膜の生物圏が、いわば物質やエネルギーの循環を果たしながら、我々人間の暮らしを支えているという事実にもう一度着目しよう。そうした意味で、みどりを主体にしてもものを考えるというライフスタイルというものを重視しなければ、もう持続的な未来はないのだと。そして、最終的に2050年にはLiving in Harmony with Natureという形で自然と共生する世界を構築しよう、という目標立てが行われているわけでありますが、まさに川崎はその先駆として取り組んでおられたなという気がいたします。それが「みどりの共創」ということでありまして、「みどりで、つなげる。みんなが、つながる。」と、まさにこういうことだろうと思います。

最近のある雑誌に川崎のみどりのボランティアの話が掲出されておりました。これも都市緑化フェアをきっかけに「midori-ba」という形で、市といろいろ協調しながら、みどりのグリーンコミュニティを形成していくということに、熱心に若い人たちが集まり始めたと、これもその兆候なのではないかというように思います。

これから多様性を尊重しながら、どうやって市民社会が共有できる会というものを見いだすのか。その一つの大きな主役というものが「みどり」、すなわち、我々は生物圏のなかにみどりによって生かされているのだという実感から始まるのではないかと。そうした意味で、川崎のこれまでの100周年と都市緑化フェアが無事成功裏に終わったということをもまずお祝いしたいのと同時に、ここから新たな始まりであるということをしっかし考えながら、より良いレガシーを残していただければと思うところであります。ご清聴ありがとうございました。

○会長（福田川崎市長）

改めまして、総括的なコメントをいただき、本当にありがとうございました。最後に私から一言申し上げたいのは、それこそ3年前の総会に先立って、この100周年、それから、全国都市緑化フェアをどういうものにしたいかといったときに、これは川崎市行政のなんとかということに決してなくてはならないということを思っておりました。一人でも多くの市民の皆さんに関わっていただいて、そして、自らの川崎というものをまた新しく発見してもらって、好きになってもらうという、そういう取組をぜひしたいというようなことを話しましたが、それは今回お集まりいただいた、参画いただいた397の団体・企業の皆さん、この人たちの方々の力があって、多くの市民の皆様を初めて巻き込むことができました。そういった意味で、皆さんに大変なご苦勞をおかけしたと思いますけれども、今、顧問の先生あるいは副会長からもコメントをいただきましたけれども、新しいつながりが生まれた1年、2年という形だったというように思います。

これからが本当の勝負といえますが、ここでつながったものをどのようにこれから、さらに新しい形にしていくか、仕組みにしていくか、あるいは文化にしていくかといったところに、高みに向けて、また目指して頑張っていきたいなと思っています。先ほど緑化フェアの報告のときにコメントしたかったのですが、緑化フェアのところにも、寒くて暑くてという気候が非常に大変な時

期でしたから、川崎市内の花弁農家の皆さん、あるいはそれを調達していただくJAさん、あるいは造園組合の皆さんも苦勞していただきました。こうしたところに、さらにボランティアの皆さんがたくさん参加していただいて、子どもたちも参加してという形で、本当にいい形の連携が、市民が一つになるような、「みどりでつながる」ということを実感できたと思います。これをまたこういった100周年で始まった文化というものの取組というものが、10年後、20年後あるいは50年後に完全な文化として定着したというような、そういうような未来の川崎の姿をみんなでこれからも目指してまいりたいなと思っています。

もう本当に感謝の気持ちしかありません。関わっていただいた全ての皆さんに、これまでの取組に感謝し、そして、これからもぜひよろしくお願いし、と申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。それでは、進行を事務局に戻します。

○司会（事務局・小池）

皆様、ありがとうございました。閉会にあたりまして、公益財団法人都市緑化機構専務理事 椰野良明様に、ご挨拶をお願いしたいと存じます。椰野様、よろしくお願いいたします。

○都市緑化機構理事長代理：専務理事 椰野 良明顧問

ただいまご紹介にあずかりました、公益財団法人都市緑化機構専務理事の椰野でございます。もう十分、福田市長さんや涌井先生、また、草壁さんからもお話をいただきました。もう閉会の挨拶は、みんな終わっているのではないかなという気もしますが、私のほうから一言ご挨拶させていただきます。本日は、ご来賓の皆様をはじめ、実行委員会の顧問、委員、参与の皆様には、ご多用のなか、ご出席をいただき、各議案につきまして、ご了承を賜りまして誠にありがとうございました。

第41回全国都市緑化かわさきフェアは、川崎市制100周年の象徴的事業として、富士見公園会場、等々力緑地会場、生田緑地会場と、それぞれに特徴ある3つのコア会場で、川崎のみどりの歴史と、これからのみどりのあり方を発信する、大変有意義なフェアとなりました。また、緑化フェアとしては初めてとなる秋・春の2期開催により、各会場で季節ごとの魅力が詰まった花やみどりの展示が行われるとともに、みどりと掛け合わせたさまざまなイベントや会場づくりに大変多くの市民、学校、企業などの皆さんが参加し、共につくる取組が行われていたことも非常に印象的でありました。そして、閉会式において福田市長により告げられた、100年先の未来への誓いとなる「みどりのKAWASAKI宣言」に基づきまして、新たなステージに向けた取組が先ほどもご紹介ありましたけれども、すでに始まっているというご報告もいただきまして感銘を受けているところでございます。全国都市緑化フェアを契機とし、みどりを介したつながり、先ほども涌井先生からも話がありましたが、まさにグリーンコミュニティがますます広がり、市民の皆様にさらに誇らしく愛される川崎となることを切に願うところであります。

結びに、本日ご出席の皆様におかれましては、令和4年9月の本実行委員会設立以来、多大なるご支援・ご協力をいただきましたことに心より感謝を申し上げまして、閉会の挨拶とさせていただきます。誠にありがとうございました。

○司会（事務局・小池）

ありがとうございました。以上を持ちまして、「川崎市市制100周年記念事業・全国都市緑化かわさきフェア実行委員会 第7回総会」は全て終了いたしました。

なお、事務連絡がございます。次回の総会のご案内でございます。議事のなかで説明がありましたように、実行委員会の解散に向けた最後の総会を来年3月頃に、書面にて開催させていただきます。改めてご案内いたしますので、よろしくお願いいたします。会場の皆様、オンライン参加の皆様、本日はご参加いただきましてありがとうございます。本日の総会をもちまして、実行委員会という形

で皆様にお集まりいただく機会は最後となります。100周年の取組としては終了ではございますが、今年、100プラス1年の年から、皆様と共に「あたらしい川崎」をつくっていきたいと思っております。

事務局を担ってきました100周年事業及び都市緑化フェアの担当も、引き続き、皆様とつながりを大切にしながら、継続・発展させていく所存でございます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。以上を持ちまして、「川崎市市制100周年記念事業・全国都市緑化かわさきフェア実行委員会 第7回総会」を閉会とさせていただきます。市制100周年記念事業・全国都市緑化かわさきフェアを一緒になって取組んでいただきまして、誠にありがとうございました。

—— 了 ——